

はじめに



有線ネットワークと同様に、WLAN などのワイヤレス ネットワークは、ネットワークの安定性を確保するために、人員と労力によって管理および保守する必要があります。。WLANネットワークの管理と保守の内容を理解し、トラブルシューティングの手順と方法を習得することで、WLANネットワークのトラブルシューティングと管理の効率を向上させることができます。

コースの目標



このコースを修了すると、次のことが可能になります。

- WLANトラブルシューティングロードマップの理解
- WLANトラブルシューティング方法の習得
- H3C WLAN NMS-iMC WSMの理解
- 一般的なSTA属性の理解



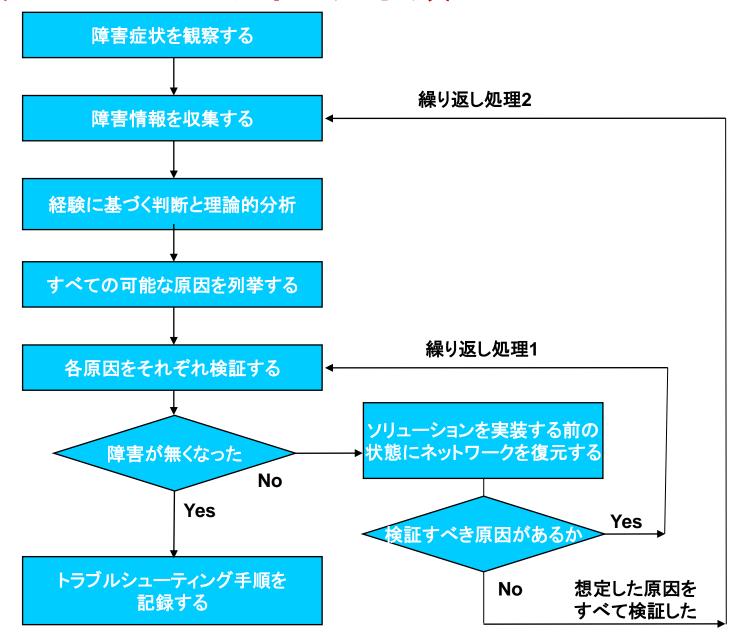
内容



- 一般的なトラブルシューティング方法
- 一般的な診断コマンド
- WLANのトラブルシューティング
- **H3C WLAN NMS-iMC WSM**
- 共通STA属性

一般的なトラブルシューティング手順

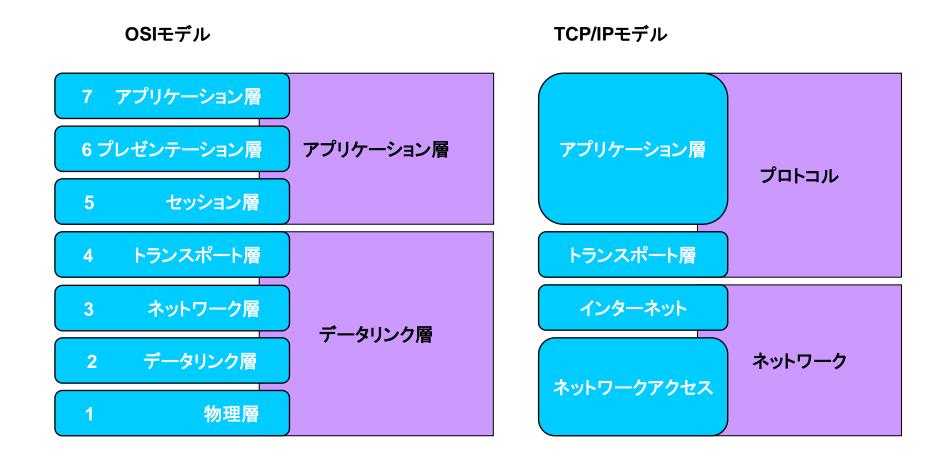




一般的なトラブルシューティング方法



● レイヤベースのトラブルシューティング



一般的なトラブルシューティング方法



- 機能モジュラー別トラブルシューティング
 - →デバイスの機能モジュールに従って、障害範囲を効果的に 削減します。
 - →単一の機能モジュールをデバッグして障害を特定します。
- 交換
 - →ハードウェア障害のチェックに有効な方法です。

スキル要件



- データコミュニケーションと無線周波数(RF)の知識とスキルを習得していること
- WLANエンジニアリングの実装とメンテナンスの標準要件を遵守すること
- WLANの実行ステータスおよび情報の監視について詳しいこと
- お客様に障害の症状を説明し、関連情報を詳細に提供できること
- トラブルシューティング手順と結果を記録し、経験の要約を作成できること



内容



- ■一般的なトラブルシューティング方法
- 一般的な診断コマンド
- WLANのトラブルシューティング
- **H3C WLAN NMS-iMC WSM**
- 共通STA属性

共通診断コマンド



- pingコマンド
- tracertコマンド
- displayコマンド
- debuggingコマンド

Pingコマンド



- pingコマンドは、IPネットワーク接続とホスト到達可能性をチェックします。
- COMWAREプラットフォームのpingコマンド
 - → ping [ip] [-c count] [-t timeout] [-s packetsize] ip-address
- WindowsプラットフォームのPingコマンド
 - → ping [-n count] [-t] [-l size] ip-address

tracertコマンド



- Tracertコマンドは、データパケットが発信元ノードから宛先ノードに渡されるゲートウェイをテストしネットワーク接続をチェックし、障害の原因を分析します。
- COMWAREプラットフォームのtracertコマンド
 - → tracert [-a ip-address] [-f first_TTL] [-m max_TTL] [-p port] [-q nqueries] [-w timeout] host
- Windowsプラットフォームのtracertコマンド
 - → tracert [-d][-h maximum_hops][-j host-list][-w timeout] host

displayコマンド



- Display version
- display wlan ap all verbose
- display wlan client verbose
- display interface
- display diagnostic-information

debuggingコマンド



- H3Cシリーズデバイスには、多数のデバッグコマンドが用意されており、ネットワーク障害が発生した場合の詳細情報の取得に役立ちます。
- 使用上の注意
 - → デバッグコマンドは、単に障害を照会するために使用します。
 - → デバッグコマンドは、負荷の少ない状況で使用することをお薦めします。
 - → デバッグコマンドの作業プロセスと提供される情報を包括的に習得する前に、デバッグコマンドをランダムに 使用しないでください。
 - → デバッグコマンドの結果の出力先を決定する前に、利便性とリソース消費のバランスを考慮してください。
 - → 特定の障害原因に応じて、適切なデバッグコマンドを使用してください。
 - → 使用後にデバッグコマンドを終了するには、undo debuggingコマンドを実行してください。
- より良い効果を得るには、displayコマンドとdebuggingコマンドを組み合わせて使用してください。

内容



- ■一般的なトラブルシューティング方法
- ■一般的な診断コマンド
- WLANのトラブルシューティング
- **H3C WLAN NMS-iMC WSM**
- 共通STA属性

WLAN製品の保守



● WLAN製品の日々の保守

- →保守基準を遵守し、他の要員の業務を監督し、実施と基準の整合性を検査する責任を負う。
- → 一般的な問題を処理し、その要約を作成し、お客様を導くためにドキュメントを提出します。
- → WLANの稼動状態に注意し、定期的にWLANを検査して、リスクをタイムリーに発見します。
- → 緊急事態に積極的に対応し、有効な情報を収集し、障害をタイムリーに発見します。



WLAN製品メンテナンスの注意事項



- WLAN製品には次の特殊性があるため、メンテナンス担当者の注意が必要です。
 - → デバイスが要件に従って確実に接地されていることを確認してください。
 - → 静電気防止対策を行ってください。
 - → WLANの動作中に他の干渉源を防止してください。
 - → 有線ネットワークの安定性を確保し、WLANの使用効果への影響を回避してください。
 - → エンジニアリングの正規化と屋外環境のセキュリティ要件に注意してください。

非標準インストール



● 非標準インストールとは、ハードウェアシステムにコンプライアンス違反が発生していることを指します。各フェーズの動作を標準に従ってチェックし、WLAN配置のコンプライアンスを確認してください。

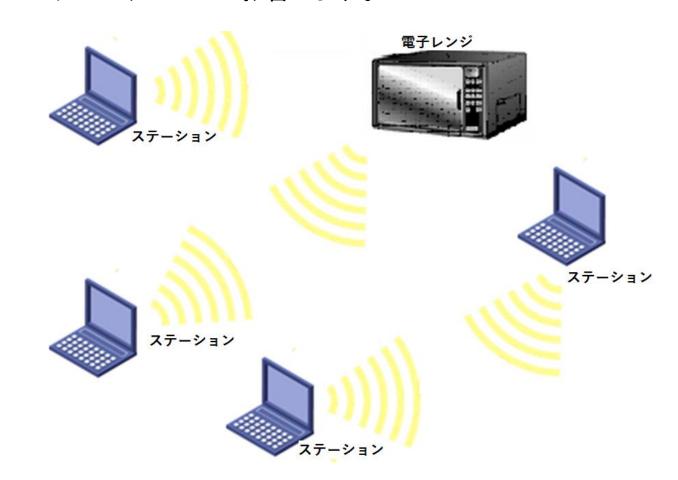
→たとえば、2つのAPのアンテナを近接して設置すると、信号が飽和して干渉が大きくなり、使用に影響します。右側の図では、2つのアンテナを間隔を空けて設置します。



信号干涉



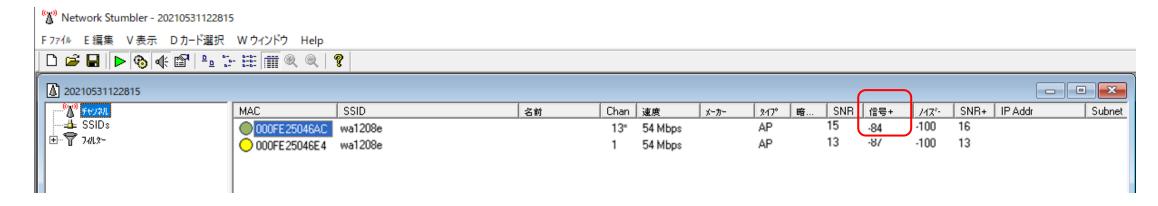
- 一般に、信号干渉の問題は不安定なWLANを引き起こしますが、これは APの位置とワークチャネルを調整することで回避できます。
 - → たとえば、他の無線デバイス(電子レンジなど)が無線環境の同じ帯域に存在し、帯域 内干渉を引き起こします。これはSTAエクスペリエンスに影響します。



弱い信号



- 非包括的な信号カバレッジが原因で弱い信号が発生します。これは、ネットワーク配置を調整することで修正できます。
 - → たとえば、Network Sttumbleを使用して、APの信号強度が-84dBmで非常に弱いことを検出します。APのステータスは黄色で、切断されていることを示します。



信号検索エラー

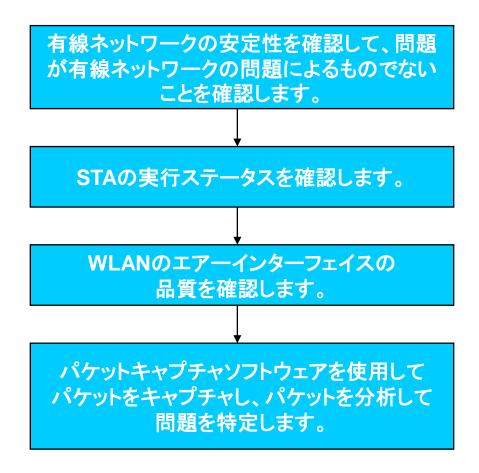


- 信号検索エラーには多くの原因が考えられます。一般に、問題は次のいずれかをチェックすることで特定できます。
 - →APが正しく設定されているかどうか。
 - → APハードウェアが正しく確実に接続されているかどうか。
 - → STAハードウェアスイッチがオンになっており、有効になっているかどうか。
 - → APの作業モードはSTAの作業モードと互換性があるかどうか。
 - → STA番号がAPの上限に達したかどうか。
 [H3C-hidecmd]display ar5drv [1 | 2] statistics

低レートまたは重大パケット損失



● まず、問題が有線ネットワークまたはワイヤレスネットワークで発生している かどうかを確認し、ワイヤレスネットワークの問題を特定します。



FIT AP登録エラー



- AC+FIT APアプリケーションでは、FIT AP登録エラーが一般的な問題です。 この問題は、次の手順に従って特定できます。
 - → FIT APの登録手順を確認してください。
 - → ネットワークと設定が正しい場合は、デバッグコマンドを実行して情報を収集します。
 - <H3C>debugging wlan lwapp event
 - <H3C>debugging wlan lwapp error
 - <H3C>debugging wlan lwapp packet control receive
 - <H3C>debugging wlan lwapp packet control send

WLAN Bridge Building FailureまたはInstable Bridge



- WLAN Bridge Building FailureまたはInstable Bridgeの問題は、次の手順に従って特定できます。
 - → ブリッジ設定をチェックして、正しく正確な設定情報を確認してください。
 - → エンジニアリングの標準化をチェックして、標準的なエンジニアリング正規化をチェックしてくだ さい。
 - → APアンテナを接続し、主ビーム角度がオーバーラップしていないか確認してください。
 - →次のコマンドを実行してブリッジ情報を収集し、問題の特定に役立ててください。

[H3C-hidecmd]display wlan mesh neighbors all

<H3C>debugging wlan mesh all

内容

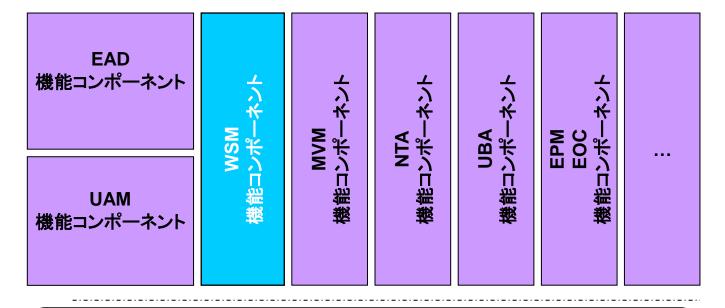


- ■一般的なトラブルシューティング方法
- ■一般的な診断コマンド
- WLANのトラブルシューティング
- ■H3C WLAN NMS-iMC WSM
- 共通STA属性

IMC WSM



● H3C Wireless System Manager(WSM)は、H3C Intelligent Management Center(iMC) に依存して、有線ネットワークとワイヤレスネットワークを統合的に管理します。iMCプラットフォームで提供される有線ネットワーク管理に基づいて、WSMは管理者にWLAN管理機能を提供します。



iMC Platform H3C Wireless System Manager(WSM)は、 H3C Intelligent Management Center(iMC)に依存しています

WLANサービス管理



● キーパフォーマンスインジケータがWLANサービス管理ページに表示されます。これには、毎日のオンラインユーザトレンド、最もユーザ数の多い上位5つのSSID、および最もユーザ数の多い上位5つのAPが含まれます。

カテゴリビュー



● WLANサービス管理のカテゴリビューでは、AC、FAT AP、FIT AP、 モバイルユーザ、ESSなど、さまざまなタイプに応じた特定の情報を 表示できます。

カスタムビュー



 カスタムビューは、ユーザの要件に従ってACおよび指定されたFIT APを管理するためのトポロジを提供し、ユーザの差別化されたニーズを満たします。

有線と無線の統合



● いずれかのトポロジで、WLANデバイス(たとえば、ACまたはFAT AP)を選択して、デバイスの無線トポロジビューに切り替えます。このビューにより、有線と無線の統合管理が容易になります。

ACおよびFIT APの物理トポロジ



● FIT APのDisplay Physical Topologyオプションは、FIT APとその AC間の物理接続を表示し、トラブルシューティングと管理を容易にします。

位置ビュー



● 位置ビューは、APの物理的な位置を明確に表示し、管理者にとって使いや すい管理方法を提供します。

オンラインユーザ履歴



● オンラインユーザ履歴機能は、デバイスに設定されたSNMPトラップに依存し、 ユーザのオンライン/オフラインアラームをiMCプラットフォームに報告します。

WLANパフォーマンスモニタリング



● WSMは、ユーザの要件に従って定義できる豊富なWLANモニタリングタスクを提供します。

WLANアラーム管理



● iMCプラットフォームは、完全なWLANアラーム管理機能を提供し、管理者が Eメールまたはアラーム設定を介して特定のメンテナンス担当者にクリティカ ルアラームを転送できるようにします。

WLANレポート



● WSMは、豊富なWLANレポートサービスを提供し、レポートコンポーネントをででででいる。 介してユーザの異なる要件を満たすようにカスタマイズされたレポートを定 義するユーザをサポートします。

FIT APグループ管理



● FIT APグループ管理機能により、オペレータはグループに基づいてFIT APを管理でき、権限に基づいてオペレータを分類できます。

内容



- ■一般的なトラブルシューティング方法
- ■一般的な診断コマンド
- WLANのトラブルシューティング
- **H3C WLAN NMS-iMC WSM**
- ■共通STA属性

STA



● STAは、WiFi PC、携帯電話、カメラ、PDAなど多様であり、WLANの問題がある場合には、STAファクターを考慮する必要があります。



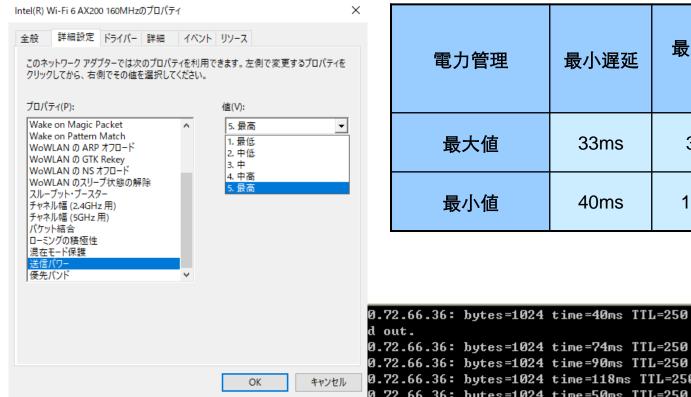
電源管理



電力管理は、電力消費とアダプターのパフォーマンスのバランスをとります。

Ping statistics for 10.72.66.36:

Approximate round trip times in milli-seconds:



電力管理	最小遅延	最大遅延	平均遅延	パケット 損失率
最大値	33ms	39ms	34ms	0%
最小値	40ms	168ms	94ms	4%

```
0.72.66.36: bytes=1024 time=118ms TTL=250
            0.72.66.36: bytes=1024 time=50ms TTL=250
Reply from 10.72.66.36: bytes=1024 time=168ms TTL=250
Reply from 10.72.66.36: bytes=1024 time=79ms TTL=250
Reply from 10.72.66.36: bytes=1024 time=47ms TTL=250
Reply from 10.72.66.36: bytes=1024 time=40ms TTL=250
    Packets: Sent = 50. Received = 48. Lost = 2 (4% loss)
   Minimum = 40ms, Maximum = 168ms, Average = 94ms
```

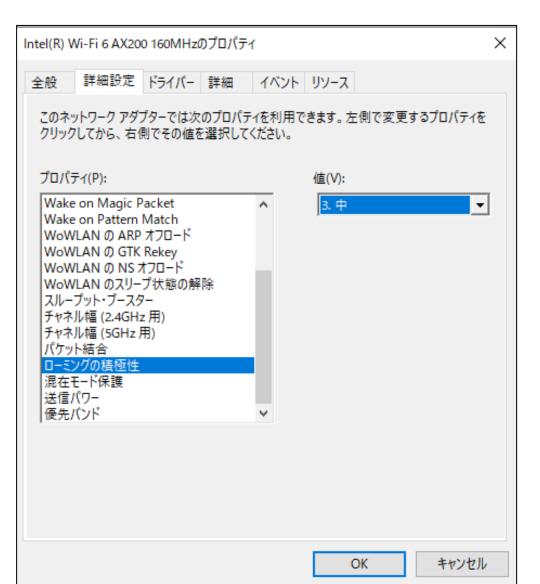
```
Reply from 10.72.66.36: bytes=1024 time=36ms TTL=250
Reply from 10.72.66.36: bytes=1024 time=33ms TTL=250
Reply from 10.72.66.36: bytes=1024 time=34ms TTL=250
Reply from 10.72.66.36: bytes=1024 time=35ms TTL=250
Reply from 10.72.66.36: bytes=1024 time=35ms TTL=250
Reply from 10.72.66.36: bytes=1024 time=33ms TTL=250
Reply from 10.72.66.36: bytes=1024 time=33ms TTL=250
Ping statistics for 10.72.66.36:
    Packets: Sent = 50. Received = 50. Lost = 0 (0% loss)
Approximate round trip times in milli-seconds:
    Minimum = 33ms, Maximum = 39ms, Average = 34ms
```

ローミングのアクティブ性



● この設定では、STAを定義して、STAからAPへのローミングのアクティブ性を向上させる

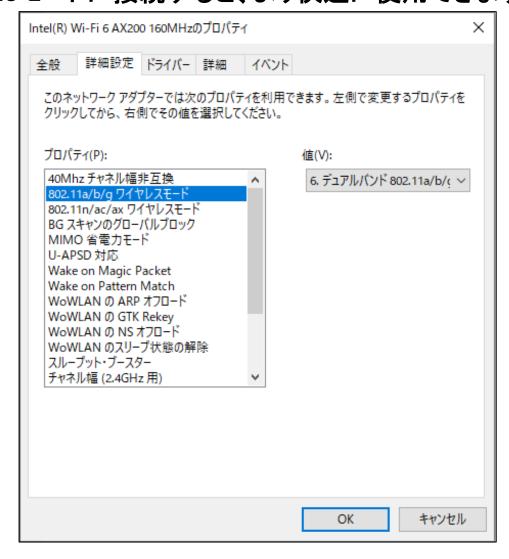
ことができます。



WLANモード



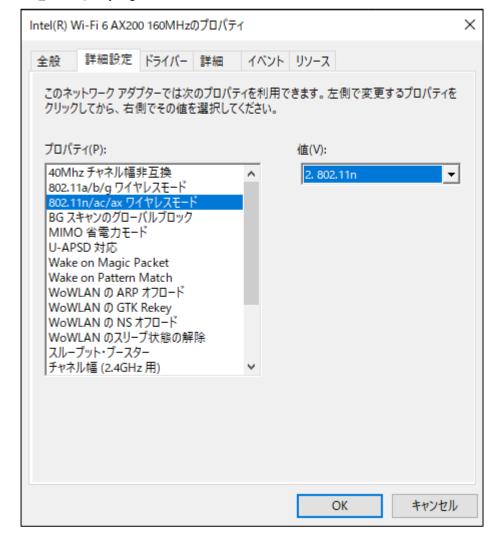
● 2.4GHz周波数には多くの干渉が存在します。5.8GHzをサポートするSTAを802.11a/an/acモードに接続すると、より快適に使用できます。



802.11nモード



● 802.11nをサポートするSTAに対して802.11nモードを有効にし、通信レートとユーザエクスペリエンスを向上させます。

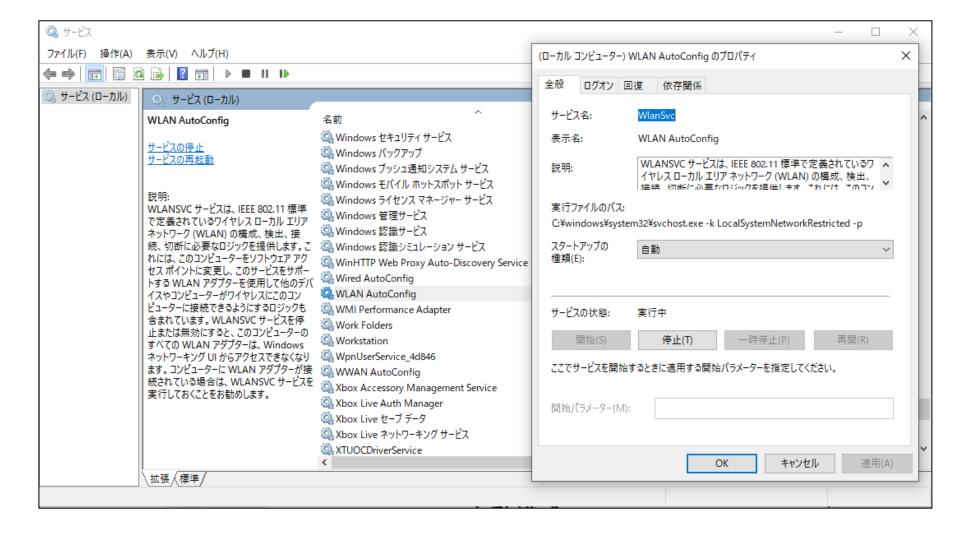


WindowsシステムのSTA管理



● WLAN自動構成

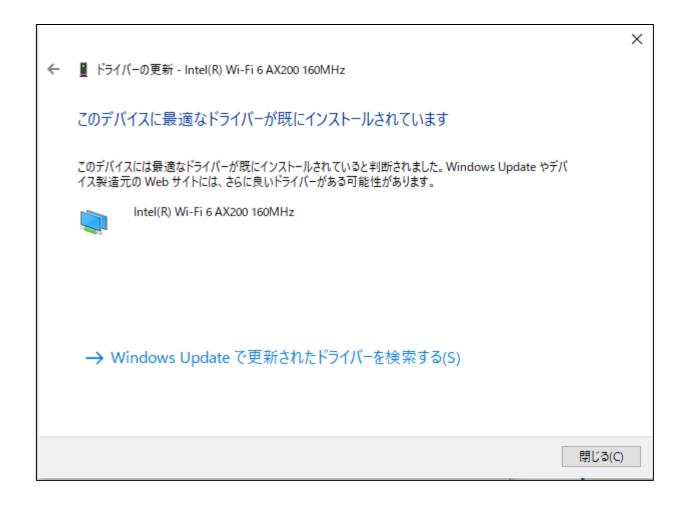
→ Windows7以降のシステムでは、802.11アダプターの自動構成サービスが提供されています。



Windows STAのドライバの更新



● STA関連の問題を処理する場合は、STAドライバに注意して更新してください。



802.1x Windows STAの認証



- Windowsユーザ名とパスワードを自動的に使用します。
- ユーザ名とパスワードを自動的にキャッシュします。
- HKEY_CURRENT_USER\(\frac{1}{2}\)Software\(\frac{1}{2}\)Microsoft\(\frac{1}{2}\)EAPOL\(\frac{1}{2}\)User\(\frac{1}{2}\)Eaplinfo

学習した内容



- 1. 一般的なトラブルシューティング方法
- 2. 一般的な診断コマンド
- 3. WLANのトラブルシューティング
- 4. H3C WLAN NMS-iMC WSM
- 5. 共通STA属性



ありがとうございます!